

高等部 3年 社会科 指導案(略案)

日時：令和4年11月25日(金)

場所：大平特別支援学校

対象生徒：高等部3年

授業者：仲間貴志

担当主事：朝倉康介

I 研究テーマ

学びに向かう力を育む教科別の指導の工夫

— 生活場面に即し成功体験を重ねる社会科の指導を土台として —

II 研究仮説

- 1 生活場面に即した授業を通して成功体験を重ねることで、学習したことを社会生活に生かそうとする態度が育まれるだろう。
- 2 課題解決的な学習を通して、社会に主体的に関わろうとする態度が育まれるだろう。

III 本単元における評価規準

高等部 2段階「外国の様子」「グローバル化する世界と日本の役割」		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。	地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現している。	グローバル化する世界と日本の役割について、主体的に関わろうとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。
主な評価材料		
振り返りシート	振り返りシート・観察	振り返りシート・観察・アンケート

IV 授業計画・評価計画

時間	学習内容・教師の言葉かけ	指導内容(留意点)	生活場面に即し、成功体験を重ねる指導のポイント	評価の観点		
				知	思	態
1	【世界の諸問題・国連・日本の役割】 「よりよい社会に向けてどのようなことが行われているでしょうか」 パワーポイントによる説明を聞き、ワークシートで学習を行う。	対話を行いながら、興味関心を引く説明を行う。 生徒が理解しやすいような画像・動画などを用意する。	★③新聞・ニュース記事を扱い、家庭でも話題になっていることがあれば、話を引き出す。	○		
2	【フェアトレード製品について学ぼう】 (体験・作成活動)フェアトレード製品の試食・試飲体験をする。 フェアトレードコーヒーについて説明するためグループに分かれ話し合う。 説明係・給仕係・アンケート係などそれぞれの役割分担を話し合いで決める。 説明の内容を考える。	理解しやすい言葉で「フェアトレード」について説明を行う。 ポイントを絞った説明の用紙(フライヤー)を提示する。 あらかじめ、配員のバランスの取れたグループを設定しておく。 各グループで、それぞれの特性にあった役割を決めることを補助する。	★③「フェアトレードコーヒー」を試飲する。味や値段について感想を聞く。 ★④失敗する不安をなくすためにフライヤーやポスターを見れば説明ができるよう工夫をする。	○	○	
3	検証授業1 【1杯のコーヒーで世界を救おう!!】 「試飲会・説明会」 グループに分かれて、本校職員に説明し、給仕する。 本校職員にアンケートを実施する反省会で発表する。	各グループに分かれて、説明会・試飲会を補助する。 会のあとにグループに分かれ反省会を実施する。生徒の感想や言葉を引き出し、まとめる。 各グループの感想を発表してもらう。	★④説明が成功し、肯定的な反応を受ける場とする。 ★③④一人一役で、無理なく可能な範囲で、実体験を経験できる場とする。 ★④広めることによって、社会問題に取り組んだことを実感できるようにする。		○	○

4	検証授業2 【わたしにもできる！SDGs】① 「フェアトレードコーヒー以外に私たちが取り組むことができる活動はどのようなものがあるだろうか」 SDGsカードを使った作業学習と発表を行う。 自分自身でよりよい社会にむけることの目標をたてる活動を行う。	前回の振り返り SDGsカード・ワークシートの説明。 実際生活でも取り組むことができそうな課題を選択し、それがSDGsとどういう関連があるのかを理解を促す。 自分で項目を選ぶ行為を補助する。 生徒が理解しにくい項目は教師が説明する。	★④前回の試飲会の教師アンケートから肯定的なコメントを取り上げる。 ★③日常的な行為と、SDGsの項目をつなげる。 ★④できそうなこと以外にも、すでにできていることを発表し、肯定的評価を受ける場とする。	○	○	○
5	【わたしにもできる！SDGs】② 「よりよい社会に向けて取り組む活動を達成することができたかどうか」 前回作成した個人目標の達成度を発表したり、内容をお互いに確認し合ったりする。	発表の内容から「主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている」態度を見取る。	★③④達成できた項目を評価する。 ★④SDGs以外にもできること、やってみようことなど生徒の発想を展開していく。		○	○

V 知的障害である生徒に対する教科別の指導のポイント(社会科:SDGsの取り組み)

生活場面に即した学習活動 (以下、単元計画の表内では★③で示す)	愛汗祭で給仕するコーヒーのメニューの一部を「フェアトレードコーヒー」にするために、本校教員向けに試飲会を開くこと(理解・広める行為)によって、具体的な活動を通し、自分の行動が、より良い社会にむけて課題を解決する糸口になることに気づく。 生活場面で取組む課題を具体的にSDGsの項目と結び付けることで自分事として感じる。
成功体験を重ねる工夫 (以下、単元計画の表内では★④で示す)	生徒自身が社会的事象(SDGs・フェアトレード)を理解し、コーヒーの試飲会で学習内容を他者にも広め、肯定的な評価をうけることが成功体験となる。

VI 本時の授業の展開

(3時間目) フェアトレードコーヒー試飲会・説明会「コーヒー1杯で世界を救おう！！」

	学習内容・教師の言葉かけ・司会の生徒のセリフ	指導内容・補助内容	★指導のポイント★
導入	※ワークルームにてミーティング グループごとに座る 前回の復習(フェアトレードコーヒー) 各班の仕事分担の内容確認	フェアトレードの説明用紙(フライヤー)を確認し、既習の内容を復習するよう促す。 各係の段取りを確認する。	試飲会の実施によって、よりよい社会にむけて取り組んでいることが実感できるような言葉かけをする。(期待感を上げる)
展開①	生徒は会場に移動(廊下側・共通スペース) 【司会の生徒(全体に説明)】 それぞれのグループで説明スタート。 説明終了後、コーヒー系の提供を待つ間、アンケート係がアンケートを実施する。 職員にコーヒーを試飲してもらおう。二つのカップのどちらがフェアトレードコーヒーなのか考えて答えてもらう。 【司会の生徒】 「みなさんどちらがフェアトレードコーヒーかわかりましたか?」何人かに質問する。 「わたしたちはSDGsの取り組みのとしてフェアトレード商品について学習しました。今日の私たちの取り組みを体験して、今後フェアトレード商品を購入したいと思いますか?」 ◎○×カードを提示してもらおう。 「みなさん、愛汗祭では、トータルサービス班のカフェでフェアトレードコーヒーも販売予定です。値段もプレミアムで、高価かもしれませんが、世界を救う一杯をぜひ、ご購入よろしくお願ひします」	給仕の際に衛生面に気をつける。 各ブースにはポスターとフライヤーをセットしてあるので、それを使用して生徒が説明を開始する。 説明終了後、感想係は教師にアンケートをしてもらう。その間、コーヒー係に準備を促す。 コーヒーを試飲してもらいながら、生徒と職員のコミュニケーションを補助する。 職員の手元に◎○×カード『買いたい』、『ときどき買いたい』、『買わない』を配布する。 ◎○×カードを回収する。 生徒をワークルームへ移動するよう伝える。	全体的に呼びかけるなかで、この会の意義を生徒が再確認できるようにする。 既習事項を説明する過程で、自信をもって伝えることができるよう、教師側でサポートする。 ゲーム性のある、楽しい雰囲気を作り、ポジティブな活動につなげる。 教師の(肯定的な)意思表示をうけ、取り組みに対する意義を感じ取ることができるようにする。 この試飲会は愛汗祭の作業班のメニューにもつながるということから、学校行事(実際に生活に即した)体験であることを再確認できるようにする。

展開②	ワークルームへ移動 最初のようにグループ別に分かれる。 カードの集計・発表 各グループで感想・反省会 全体で感想・反省会	各グループの◎○×カードの枚数を発表し、黒板で集計する。 個人用振り返りシートの記入。 それぞれの感想・意見を引き出し、プリントにまとめる。グループで感想の意見をまとめる。各グループの代表が発表する。	◎○×カードの枚数を数えて発表させることにより、教師の肯定的な反応を再確認する。 グループ学習の中でお互いの話を聞いたり、グループ間の体験報告を聞いたりすることで成功体験を分かち合う。
まとめ	「今回より良い社会にむけた一つの取り組みを行いました。ほかにも自分たちの活動で社会を変えることができるかと思っています。次回の授業ではそれらのことを話し合いたいと思います。」	振り返りシート	職員の反応をもとに、今回の活動で、社会の問題の解決に貢献したということを強調し、成功体験を感じることができるようにする。

(4時間目)「わたしにもできる！SDGs」

時間	学習内容・教師の言葉かけ・司会の生徒のセリフ	指導内容・補助内容	★指導のポイント★
導入	前回の試飲会の先生方のアンケートを確認する。	職員アンケート結果 肯定的な意見や、感想、新しい情報などを提示する。	試飲会でとったアンケートの結果(肯定的な反応)から活動のよさを知る。
展開①	「前回の試飲会のあとのグループの反省会からコメントを確認します」 「みなさん一人一人の振り返りをしましょう」 個人の名前の入った振り返りシート(OPP風シート)を配布。 「これまでのアンケート内容が書かれています。」 単元振り返りシートを記入する。	前回のグループ学習の発表からコメントを紹介する。 国連の働き・日本の役割・SDGs・フェアトレードの学習を振り返り、自分の考え方の変容などに気づく場とする。 個人内の振り返りシート(OPP風シート)を確認して記入する。	自分のこれまでのアンケート結果などを確認することで、より具体的に学習の過程を振り返ることができる。
展開②	「SDGsカード」を全員に配る。(11枚) ①実際に取り組みそうなものを選ぶ。裏面を確認し、取り組みそうな事項とSDGsの項目が繋がっていることを理解する。選んだカードの枚数をプリントに記入する。 ②選んだカードと説明を発表する。 ③クラスメートの発表を聞いて理解を深め、さらに取り組みそうだと感じるカードの枚数をプリントに記入する。 ④来週までにできそうだと思うカードを一つ選び、「シートに書き写す。シートの右側にはその他取り組みそうなカードを広げて貼り付ける。	机間をまわり、カードの説明や活動を促す。 発表の難しい生徒の補助を行う。 理解が難しい、連想が苦手な生徒へ声掛けを行い、自分事になるよう導く。 はさみ・のりで作業するのでサポートをする。	自分自身でよりよい社会にむけてできることを目標たてる活動。 生徒の日常の生活場面で取り組むことができる事項もSDGsの目標とつながっていることを理解できるようにする。
まとめ	「みなさんが作成した「私にもできる」シートは1週間、学級の近くに掲示しますので、達成できた、取り組んだ回数分だけシールを貼り付けてください。」 来週は、お互いの取り組みたいことを発表する時間になります。	振り返りシート	次週までになるべく多くのシールが貼られているよう期待していることを強調して伝える。

授業の評価と検証

授業の評価(◎適切 ○やや適切 △改善が必要)

項目	評価	メモ(備考)
題材と研究テーマのかかわりは明確であったか		
本時のねらいの設定は適切であったか		
授業の展開は対象生徒の実態に合っていたか		
教材・教具は適切であったか		
時間配分は適切であったか		
ご意見・お気づきの点がありましたら、ご記入をお願いします。		